

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400407		
法人名	(有)アテンド		
事業所名	グループホームすかい (藤・桜合同ユニット)		
所在地	静岡県伊東市八幡野1759-800		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2270400407-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者各個人の状況、希望に添い介護サービス提供することを主軸とし、個人の尊厳、入居者主体を重んじ施設内に閉じ込めない介護を目指しております。地域社会交流による生活の活性を図るため、散歩、外食、買い物ドライブ、地域イベントの参加等外出支援を積極的に行っております。当施設も10年目になり、機能低下進行の入居者や年齢的にも90歳以上の方が増え、看取りケアの実践では、利用者、ご家族の意向、希望を重視し、主治医の指導も考慮に入れながら、最期の時まで穏やかに過ごせるよう配慮したケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階のデッキからは海も見える郊外の別荘地に開設して11年目となる事業所です。室内は新築と変わらぬ清潔さが保たれ、"暮らしやすさ、への取組みの高さが伝わります。本年度は法人代表の交替により勤務時間をはじめ大幅に体制が代わり、利用者・職員にも少なからず影響があったようですが、調査訪問時には朗らかではつつとした職員の様子が垣間見え、前に向かい始めていることが覗えます。以前からアクティビティ活動には定評があり、輪投げやDVD体操、ボール投げの運動レク、バンド演奏経験のある職員の音楽レク、ちぎり絵のクラフトレクとバリエーションが豊かで利用者も「次はいつ?」と待ちわびているほどです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会交流を重んじ、閉じ込めないケアの実践。 外食をはじめとし、買い物支援、ドライブ等可能な限り、外出機会を支援している。	創業者が退くこととなり、理念も「尊厳のあるその人らしい穏やかな～」と新たに掲げられています。「屋外への外出を可能な限り自由にできるように」とし、当初は職員の見守りが必要な人も現在は10～15分コースを単独で外出できるようになった例もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ交流、地域恒例花火見物、一部家族を交えた恒例ガーデンパーベキューの開催と積極的に行っている。	別荘地のため自治会活動はありませんが、散歩での挨拶、頂きものも届きます。2千発は上る花火大会には公共施設が観覧場所の確保に協力くださり、利用者4名が愉しめました。ハーモニカや三味線のボランティアで賑わい、社会実習の中学生の訪問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居検討中御家族訪問見学、又は電話問い合わせ、地域包括主催による認知症理解等、それぞれの状況に於いて、認知症症状について又、当施設取り組み等を報告、助言アドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会開催、外部評価の実施等によって、今後のサービス提供に生かした取り組みを行っている。	もともと市役所や地域からの出席が望めない状況にあるため、家族会を運営推進会議1回分として数えています。法人代表の交替があったことが影響して、開催の遅れや家族にも新体制への不安があり、未だ安定してません。	次の2点を期待します。①運営推進会議の開催数の確保 ②新代表が急ぎ家族に挨拶をおこない理解を得る
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事の状況により相談、アドバイスを受けている。	地域包括支援センターは急遽の運営推進会議出席依頼にも快く応じてくれ、助けられています。市役所は議事録提出に「任意で受理する」としており今後も参加は見込めないようですが、小規模施設系サービス部会に出向くなど事業所としては連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束内容についての資料を各ユニット配布、拘束内容の理解を深め、ゼロ拘束とした運営を行っている。	階下へ新聞を取りこいくのが日課の利用者もあり、自由な行き来があります。また安全のためベットの柵にカバーを設置した例は、囲い込みにはなっていないことを視認しました。過去、やむを得ない事情により実施したケースでは理由、同意、記録といった正規の手順を踏んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各状況場面に対し、職員全体が認識と警鐘を持って防止している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的に事例も生じており、ある程度の把握は出来ている。更なる詳細専門的理解を深める為の研修等の取り組みを図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は特に大きな制度の改革が行われたがその都度紙面、又は家族会開催時に説明理解を得るように取り計らっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや、ご家族面会時には現状の中に於ける、様々な要望や意見の聞き取りを重ね、カンファレンスシートまたは、ケアプランに乗せ反映している。	利用者の状況を写真付き手書きコメントで毎月郵送しており、受領の返信をしてもらえるよう手配して、双方向のやりとりが叶っています。また隔月発行の新聞「そら、も再開しました。「不手際があっても正直な報告を以て信頼を深めている」との言葉も家族アンケートに挙がっています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の中に時間を割り当て、必ず意見や要望の確認を行っている。	次回議事を予め持ち寄ってもらうことで、会議での積極的な発言を募っています。それでも議論は活発とは言えませんが、年間で内部研修を位置付け各職員に講師を務めてもらったり、接遇や防災等の担当制を敷いて「主体性」を育てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間処遇に対する不満感から、意欲低下に繋がらないよう配慮し、可能な限りの労働条件の改善や環境に於いても休憩場所の環境整備も配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護プロ意識の向上に繋がるよう、日々の状況指導や施設内研修(全体会議の場)、又は外部研修の参加推奨に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の資質向上の一環を図る目的を兼ね、研修や勉強会の参加を推奨し、他施設職員との交流や情報交換が出来る機会が多くなるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問、情報収集等、可能な限り本人の入居後の生活支援が、それまでの生活の継続に支障がないよう、アセスメントを行い、入居後は、かかわりを多くし、早くホームに慣れて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や、入居時には特にご家族が入居を選択した心意、背景等も受け止め、入居後に於いてはどのような生活を送って欲しいか等の意向を良く確認し、また面会時は、家族から見た入居者の様子も確認し、ケアの方向に繋がるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のかかわりの中で、会話やそれぞれ個人の希望、要望を重視し、本人機能レベル、残存機能に添いながら共に何か行うことで、信頼関係の構築や、機能低下の予防に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会、外食、外泊の推奨はもとより手紙や年賀状の交換、電話での会話も取り計らいホームでのガーデンバーベキュー参加、在宅時かかりつけ医となっている医療機関の継続を望む場合は、家族介助の受診を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様に行っている。	キーボードが趣味の人には演奏をお願いし、生家の東伊豆町(往復40分)までドライブの足を延ばしたり、珈琲メーカーで本格的な香りや味に浸る人と、一人ひとりの馴染みや趣への支援が実現しており、事業所が無理なことは家族に応援を依頼して取組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の孤立、トラブル等については、入居者全体を把握することで、全体の入居者がいかなる状況下に於いても、穏やかで、満足ができ、不公平感のない生活が出来るよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、連絡を取り合ったり、現在生活をしている所へ面会に伺ったりしていたが、最近そのことが中々出来なくなっている。時に、外でご家族とお会いした時は、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係が出来てくると時に自己本位の希望訴えが出てくる時もあるが、そのことにより、他者に影響がある場合は、本人理解できるように試行錯誤の支援を繰り返し行い、納得出来るまで努力ケアを重ねている。	入居前に家庭での生活状況を十分に把握し、使用していた器具や環境に変化がないように本人、家族から意向を聞きとっています。居室の温度管理を自分でしたいとの希望に、リモコン操作は無理とわかっているにもかかわらず、いったんは受入れた例からは「本人本位」が伝わります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントの情報を重視、また、入居後の介護を通した本人の状況を踏まえ、今後の生活が出来る限り継続され、安心した穏やかな生活が出来るよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切に日々の変化に注意観察を行い、その日の状態に沿って介護している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス、ケアプランの作成、突発的な事項についてはその都度ショートカンファレンスを行い、状態と対応の共有を図り、於かれた状況対応に情報の共有を図っている。また、医療機関情報、家族意向についても面会時、急変時は、電話連絡により意向確認、反映に繋げている	ショートカンファレンスでは「どうありたいか」「どうなったか」と分かりやすい項目に分類された十分な協議が記録からも察せられ、また本年度は「モニタリングシートの評価内容を増やしたところ記入しにくくなった」ことからシートの見直しをおこなうなど、本件への真摯な取組みがみられます。	モニタリングシートの見直しにより計画作成の内容が簡略化されることのないように、効果の検証も併せて進めていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録シートにトータル的に把握出来る1日の様子の記録を続けている。問題があった場合、申し送りや情報を職員間で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護現場に答えは一つではないという事を常に念頭に置き、誰もが感じたこと、疑問に思ったこと、悩んだことを話し合うことを重視する介護現場の問題解決方向として問い続けている。そこから見えた共通課題の方向性、方針の決定を重視している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ可能な限りの参加、ボランティア受け入れでの生活の活性化、地方紙の日々の記事に対しての情報提供の現場を重視して、住み慣れた地域情報を提供し、また、散歩中の近隣者との会話機会作りにも取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の意向確認により、各入居者が必要な受診による治療継続への支援を行っている。定期往診に加え、状態により必要時は他の専門病院受診介助、または、ご家族への受診介助依頼と状況に合わせ対応している。状況に合わせ24時間体制の往診も受けている。	総合病院等外来受診は3名、家族が付き添い帰りには外食したりと楽しみの機会となっている人もいます。そのほかの利用者は24時間連絡のとれる月2回往診の協力医に変更しています。常勤看護師が非常勤になったことは誤嚥など一時的に戸惑いや影響がありました。	非常勤看護師となったことで2点を期待します。①職員の不安や不満が募らないよう、今ある医療環境でのリスクマネジメントについて検討する ②医療連携の不足がないか数ヶ月ごとに評価する
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート正看護師1名の体制。申し送りや、気づき、また、急変時など、介護職員はその状態を伝え、具体的な対応アドバイス等、話し合いながら、入居者の健康維持継続が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、面会による状況確認、担当看護師や相談員、必要に於いては、医師等と情報収集に努め、ご家族意向も踏まえた上、早期退院受け入れる方向に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階でご家族等の意向確認を執っており、以降は状態の変化に合わせDr診断も兼ね合わせ、状態変化の都度、看取りを望む場合のホームに於ける看取り内容をも、紙面による内容の説明も同時に行い意思確認をしている。	終末期については確認同意書を家族と交わしていますが、「場面毎に気持ちが変わるもの」とこれまでの経験で承知しているため柔軟に対応することを旨とし、また救急搬送についても同様に承諾書に基づき対処しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、マニュアル化により、職員は、その対応を周知徹底しており、また、往診を受けている入居者の医療機関については、24時間体制の往診対応により、連携体制は整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や、専門機関の協力を得て、定期的な避難訓練(夜間想定も含む)を行っている。また、非常機器取り扱いもその都度、説明を受けている。非常時の受け入れ機関とは、契約書を交わしている。	昨年12月には防災機器業者を講師として招き、取扱方法をはじめ基本知識を学び、消防署への通報訓練もおこないました。階段を下りることができない利用者は、職員が2人がかりでレスキューシート(腰かけられる移動用搬送具)を使い、臨場感ある訓練をおこなっています。	有事に近隣の応援を期待できにくい環境のため職員の連絡網整備など、職員間で状況を向上させるための話し合いを繰り返しもつことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が穏やかで安心した生活が送れるよう、言葉遣い、対応の在り方に十分配慮したケアとなるよう環境も含め配慮している。状況に於いては、その都度、接遇の在り方で人格や尊厳が傷つくことなど職員指導している。	同性介助の希望にも応じる態勢にあり、接遇担当の職員が模範となり、言葉遣いについても注視して「上から目線」「友達感覚」がでないよう気遣っています。利用者の穏やかな表情やリビングの雰囲気、居室の様子からも、尊厳を大切にその人を中心においていることが感じられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話、問いかかけを日常介護の取り組み姿勢とし、それぞれの意向や希望が、色々の場面で確認出来る配慮、その中で可能な限り対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望内容によっては、すべてその人に合わせることは出来ないことも多いが、その日、その時の個人の意思確認を尊重しながら、個人ペースに沿う支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室の利用、男性では、床屋へお連れしたりして整容に配慮、その人らしい生活維持を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の機能に合わせて食事作りの下準備や、食後の後片付け等、入居者間での役割分担を生かしながら共に行っている。	可能な範囲で野菜の下ごしらえや手先をつかった準備作業を手伝い、利用者は健康的な食欲をみせるほか、片づけの役割は取りあいになるほどです。クラシック音楽が流れるなかの職員手作りメニューはボリュームも味も満点でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の主婦が家族の健康管理に配慮するように、栄養のバランス、彩り、入居者に合わせた形態に配慮、圧力鍋を利用したりしている。肉、野菜、豆類の利用等に注意しメニュー作成、また、個人ペースに合わせた量、時間にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と、個人の機能に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認することで、各個人の排泄パターンの把握により支援している。夏季と冬季では相違はあるが、夏季はオムツ外しの方向で支援し、夜間はオムツ対応でも、日中は出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。	車いす対応の広いスペースや手すりが左右に充実しているなど、状態に合わせて利用できるような配慮のある設計です。本年度は研修に因り介助方法が統一され、オムツで全介助の人にも標準化された気持ちの良いサービス提供が叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日起床時は、牛乳を飲用、メニューに食物繊維が豊富な野菜、海藻類、きのこ類、豆類、などを多く取り入れ、ヨーグルトもよく使ったりしている。また、可能な人は、散歩、アクティブでの運動等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状は各個人の希望に沿った対応とは言えないが、冬季は3人、夏季は4人、1人が2~3日間隔で入浴が出来るよう支援している。強い拒否や希望時は、その希望に沿った対応をしている。	車いすや重度化となっても湯にゆっくり浸かることのできるリフト浴を配しています。拒否の人には試行錯誤して清潔を保てるよう配慮していますが、夜間なら落ち着くことがわかった利用者には職員配置を工夫して19時~21時を入浴タイムとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遮光カーテン、ブラインドの利用等による、採光調節、テレビ観賞時間の設定や就寝時間の早い方への配慮として会話のトーン、物音、テレビボリューム調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬カレンダーに1週間分の各個人ごと薬セット。その都度担当者が与薬準備を行い、確実に服薬の支援。また、各個人の薬手帳に処方内容薬シールの保管、処方時の文献管理などにより、各職員が内容確認出来る環境にある。また、Dr状況報告内服調整への配慮も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、タタミ、料理の下ごしらえ、食後の後片付け等、それぞれの役割分担で、好きなことの家事を行われる。その日の気分しだいで、無理強いはいしない。また、庭掃きや草むしり等、自然に自主的に行われることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と外食外出、ドライブ、外来受診等の外出や希望時の自宅外泊、ホームでの外食外出、地域イベントへの参加外出、散歩など、可能な限り閉じ込めない介護方針を目指し支援している。	8人乗りの自家用車からレンタカー予約に代わっても外出に努め、市内ショッピングモールでの買い物や河津桜見物にもでかけています。各ユニットに2~3名車いすを必要とする人がいても新しい探訪先に余念がなく、最近では市役所8階のレストラン外食で眺望を堪能しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の希望と、ある程度所持管理可能な方は、自己管理所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話対応や希望によって家族への電話、手紙のやりとり等本人の希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生活環境に配慮し、室温設定または、加湿に留意し、季節の草花を生けたりして季節を感じて頂いたり、大きな不快音を出して驚かせないなど配慮している。	正月に着物で祝うことを皮切りに季節に寄り添う趣のある毎日が此処には在り、調査訪問時には和室に見事な雛人形が飾られていました。1階だけでなく2階にもあるウッドデッキの設えには光沢がみられ、きちんとしたメンテナンスが観えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで気の合った同士で散歩したり、デッキでお茶をしたり、中庭で会話したりと、出来るだけ配慮や工夫を心がけ支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはその事の大切さを家族に説明し、馴染みの品々での環境作りへの協力依頼をしている。	トイレとドアの色を替え、西日の入る窓にはブラインドを装着、表札はつけず目印で対応してと「暮らしやすく」との想いが伝わります。テーブルや食器棚のほかゴルフパットが持ち込まれ、どの部屋にも個性的で落ち着いた雰囲気があり、日頃のケアの丁寧さを物語るかのようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の壁紙を変え、カーテンは入居時持参して頂き、各部屋の相違工夫、トイレ入り口に電灯設置し、夜間は照明を点け、入り口ドアの色違いの工夫で、場所の認識理解しやすい配慮を施している。		